

探訪 新 ライフスタイル

サードウェーブコーヒーさらに深く



（ばいせん）、ドリップ方法など、こだわりのコーヒー文化を追い求めるカフェは増加の一途をたどっている。産地への直接買い付けや自家焙煎、バリスタが丁寧に提供するサードウェーブコーヒースタイルは、米国西海岸のサンフランシスコやポートランド、オーストラリアのシドニー、メルボルンなどライフスタイル先端都市の象徴となってきた。この流れは日本でも広がる。

こだわり、外国人にも理解

日本にいながら外国にいふかのようを感じるのが、大阪・心斎橋の「Lilo Coffee Roasters（リロ・コーヒー・ロースターズ）」。08年にビル3階の美容室の一角で開業後、14年に移転した。来店客の大多数は外国人の人たちで、焙煎機を設置したハンドメイドのスタイルを貫く。リラックスできる一寧な接客は世界中にインスタグラムで発信されている。

両店舗に訪れる外国人の人々は、日本のコーヒー文化の「だわり」といへ新しい

多くの企業は、朝から夕方まで長い時間会議室で座りこみ、一日の大半を会議に費してしまっている。一方で、朝早く起きて、朝食を済ませてから、朝の散歩や運動をしてから、仕事に向かう人が増えている。このように、朝のスタイルが変わったことで、朝の時間は多くなっている。しかし、朝の時間は、朝の活動によって消費されることが多い。そのため、朝の時間は、朝の活動によって消費されることが多い。そのため、朝の時間は、朝の活動によって消費されることが多い。

ム制であり、「コーヒー」と共に良いスタートダッシュをし、夕方前には仕事を終えてアウトドアやハッピーピアワーに繰り出す、自宅のDIYや「ミニヨニティ」のボランティア活動をするなど、日常の暮らしを大切にするライフスタイルを心掛ける。

理解

ンを大事にしていた。

サードウェーブコーヒーの存在は、その街のライフスタイルまで連鎖する。ポートランドのカフェのピーク時間が朝7時から8時なのは、自転車通勤者がオフィスに行く前に、なじみのバリスタと会話を楽しみながら自分好みのコーヒータイムを過ごしたり、マイボトルに入れてオフィスに持ち込み朝から仕事をスタートしたりするからだ。

多くの企業は一定の定められた時間帯の中で就業時間を決めるフレックスタイル

ム制であり、コーヒーと共に良いスタートダッシュをし、夕方前には仕事を終えてアウトドアやハッピーフリーに繰り出す、自宅のDIYやコミュニケーションのボランティア活動をするなど、日常の暮らしを大切にするライフスタイルを心掛ける。

大阪・心斎橋のアメリカ村にある
「リロコーヒーロースターズ」

6

両店舗に訪れる外国人は、日本のコーヒー文化のこだわりという、新しい

多くの企業は一定の定められた時間帯の中で就業時間を見るフレックスタイル

う。
（商い創造研究所代表 松
本大地）